

クローバー通信

第12回 交流会の報告



呼吸器・アレルギー内科 レジデント 中村祐介

この度、第12回クローバー交流会にて、血液・腫瘍内科の永澤英子先生と共にロールモデル紹介をさせていただきました。会場は学生、研修医、医師等、様々な職種の方にお集まりいただきました。

永澤先生は大学院生であった妊娠中に学位論文を完成させ、その後出産されたという経験をお話しされ、家庭と仕事を両立するその裏には大変な苦労があったのではないかと推察しました。また、子供が病気になった時、両親が遠方のため頼りにくいなど、今後の女性医師支援の課題となるコメントもありました。

次いで私の経験談を発表させていただきました。私は研修医1年目の時に、当時呼吸器・アレルギー内科のレジデントであった妻との間に長女を授かりました。以前から、育児に興味があり、育児休暇（入職1年目は育児休暇が取れないと言われ、有給休暇を全て使用しました）を1ヶ月ほど取りましたが、第一子ということもあり、結局何をしてもよいかかわからず無為に過ごしてしまった事を話しました。また、これまでの生活を振り返り、共働きであっても結局は、女性に育児の負担をかけてしまっている現実も話しました。女性医師が家庭と仕事を両立させるためには、家族と家事の負担を分配する事も必要だと思います。女性医師の支援は、職場での環境整備も必須ではありますが、家庭での環境整備も同様に行う必要があると思います。



第4回女性医師支援センター講演会を終えて



平成26年11月29日（土）関湊記念ホールにて第4回女性医師支援センター講演会を開催しました。女性医師のキャリア形成支援を軸にワークライフバランス（WLB）を考慮した勤務環境作りを目的に女性医師支援センターが開設され、丸3年経過しました。これまでの活動から、女性医師支援は女性医師のみならず男性も含めた、また、医師だけではなく看護師や事務方も含めた医療職全体の支援であるとの認識を新たに、今回のテーマを「WLB」と「イクメン」としました。

中央大学大学院ビジネススクール特任研究員の高村静氏から「多様な人材の活躍に向けたWLBを考える」と題して、人口減少が深刻化する中で、人・人材が最大の資産・資源であるということ、その為には一人一人の個性を生かすことが重要であると伺いました。人を生かす組織には、人を生かすWLB管理職が不可欠で、仕事の能力だけでなく柔軟なマネジメント能力、若手の指導などが評価されます。部下のWLB実現には上司の役割が鍵のようです。

NPO法人ファザーリングジャパン事務局長の徳倉康之氏からは「これからの新しい働き方～イクボス・イクメン・育キャリ～」と題して、子どもを産み育てることが難しくなっている現状を踏まえ、イクメンが家庭そして国家を救う！話をお聞きしました。育キャリとは自分ひとりだけでなく子どもやパートナーと一緒に成長していけるキャリアのあり方を言うのだそうですが、良い父親ではなく笑っている父親が増えると、ワークライフシナジー（仕事と生活の相乗効果）が生まれるとのことでした。

これまで、たとえイクメンではなかった方々もイクボスにはなれます。“インフラ”は益々整備されつつありますので、豊かな人生をめざして是非“マインド”に磨きをかけてまいりましょう。



（文責 望月善子）

イブニングシッターサービス事業について



9～12月の試行期間における利用状況の結果、来年1月以降の事業継続が決定いたしました。これからも先生方のキャリアUPのためにぜひこの事業をご活用ください。

問い合わせ先

女性医師支援センター（内線3486）

✉ E-mail clover@dokkyomed.ac.jp